

平成 22 年度 第 1 回 機関保証制度検証委員会 議事要旨

1. 日 時 平成 23 年 1 月 18 日 (火) 13:00~15:00

2. 場 所 グランドヒル市ヶ谷 3 階 真珠の間

3. 議 事

- (1) 日本学生支援機構理事挨拶及び委員紹介
- (2) 委員長の選出
- (3) 委員長代理の選出
- (4) 工程表について
- (5) 奨学金制度の概要について
- (6) 返還金回収の状況について
- (7) 機関保証制度の概要について
- (8) 自由討議
- (9) 次回日程について

4. 出席者

(◎委員)

市橋委員、黒木委員、宗野委員、三隅委員 (委員長)、阿部委員、月岡委員

(□日本国際教育支援協会)

井上理事長 (オブザーバー)、大森機関保証センター長

(○機構)

石矢奨学事業本部長、吉田債権管理部長

5. 議事概要

(配布資料に基づき、事務局及び分析業務受託業者から説明)

◎委員：本委員会の最終目的は、機関保証債権の返還促進に係るアクションプラン等のアウトプットを作成することか。

○機構：返還促進策の検証については、本機構で別に設置している返還促進策等検証委員会に

おいて行うこととしている。本委員会においては、財務の健全性や機関保証制度の妥当性について検証していただきたい。

◎委員：機関保証制度は始まってからまだ日が浅いため、今すぐに制度の大きな変更を検討するに足るデータが蓄積されていないのが現状。そのため、今後データを蓄積する際には、現状の施策がどの程度財務の健全性に資するのかという観点で、検証を重ねる必要がある。その積み重ねとデータの蓄積をどのように分析すれば、長期的に意義のある検証になるかについて、アイデアを出していくことが本委員会の目的であると考えている。

◎委員：昨年度分析における「回収プロセスを早期化したシナリオ」と、本年度の実績との間のずれについて、詳細な分析を行ってほしい。

●分析業務受託業者：昨年度の分析においては、機関保証債権の返還に関するデータの蓄積が1年分しかなく、人的保証債権のデータを流用して分析したことから、シミュレーションの限界があった。今年度はデータも蓄積されており、昨年度よりも精度を上げ、説得力のあるものとした。分析の進捗は、現状前年度に実施されたシミュレーションのロジック等を確認して、それを再現していこうと準備している段階で、実績との間のずれについて、その原因が何かロジック上の中でも見つけていけるように取り組みたい。

(以 上)